

## 兵庫・三条九ノ坪遺跡



(大阪西北部)

発掘調査は阪神淡路大震災の被災マンションの再建に伴うもので、調査面積は約六〇〇m<sup>2</sup>である。

検出した遺構には水田跡と流路がある。流路は幅約7m、深さは最深部で検出面から1mを測る。流路の方向は北東から南西に流れ、調査区内で屈曲して南に方向を変えている。屈曲部西岸には杭列が検出された。攻撃面にあたることから護岸の目的で設置されたものであろう。流路の南側には水田跡が展開しているが、両者に切合い関係は認められない。さらに、流路から水田跡に水を供給していたと考えられる取水口を一ヵ所検出していることから、流路と水田は同一時期に機能していたものと思われる。

- |   |               |   |
|---|---------------|---|
| 1 | 所在地           | 兵庫県芦屋市三条町   |
| 2 | 調査期間          | 一九九六年（平8）九月～一月  |
| 3 | 発掘機関          | 兵庫県教育委員会  |
| 4 | 調査担当者         | 高瀬一嘉・半澤幹雄   |
| 5 | 遺跡の種類         | 水田跡・自然流路  |
| 6 | 遺跡の年代         | 古墳時代～奈良時代   |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 三条九ノ坪遺跡は芦屋市の西部、神戸市との境界近くに位置し、芦屋台地から流出した土砂によって形成された標高約30mの扇状地上に立地している。これまで芦屋市などによって合計一五次の調査が実施されてきた遺跡である。今回の |

遺物は流路内から出土したものが大半である。流路内からは、弥生時代後期末～平安時代初頭の遺物が出土しており、大半は土器であるが、木簡・下駄・木錘・曲物・鞆・杭などの木製品も出土した。土器は古墳時代後半から末にかけてのものが多く、奈良時代以降のものは「ぐ」と上層に限られる。木簡は二点出土しているが、一点は全く判読不可能であり、釈読を行なった一点について報告する。

### 8 木簡の釈文・内容

(1) 「子卯丑」□伺

・「三壬子年」□

(199)×33×6 019

下部を折れによって消失したものである。○一九型式としたが、上端を円形に仕上げており、両側面にも面取りを行なっている。表裏面ともに比較的平滑に整えており、丁寧な作りの印象をもつ。



表面は十二支を表現しているようであるが、順不同であり、意味は明らかではない。

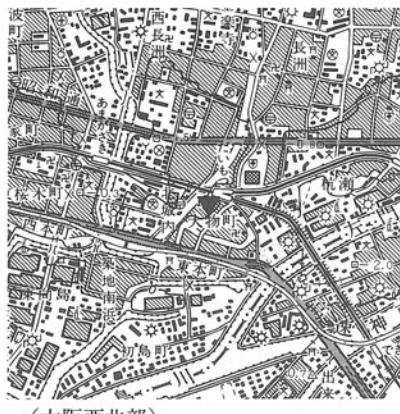
裏面は年号と考えられ、年号で三のつく壬子年は候補として白雉三年（六五二）と宝亀三年（七七二）がある。出土した土器と年号表現の方法から勘案して前者の時期が妥当であろう。

釈説については兵庫県立歴史博物館の小林基伸氏のご教示をいただいた。

（高瀬一嘉）

## 兵庫・だいもつ大物遺跡

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 所在地           | 兵庫県尼崎市大物町      |
| 2 調査期間          | 一九九五年（平7）四月～八月 |
| 3 発掘機関          | 尼崎市教育委員会       |
| 4 調査担当者         | 岡田 務・山上真子      |
| 5 遺跡の種類         | 遺物包含地          |
| 6 遺跡の年代         | 平安時代～江戸時代      |
| 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 |                |



(大阪西北部)

調査地は、近世の尼崎城下町の一つである「大物町」の北端に位置する。調査は、市営住宅建て替え工事に先立ち行なわれ、建物予定地のほぼ全面発掘調査を実施した。

調査の結果、建物跡などの明確な遺構は検出することができなかつたが、現在の表土より一・七・三・四mの深さで、中世の包含層を検出した。中世の包含層は、基本的に七層にわける